

第2章 総合学習

I 総合学習の基本的な考え方

1. 社会的要請と総合学習

これまでの研究から、「よりよく生きる」生徒を育てるためには、「各教科の学習」「教科等の学習」「選択教科の学習」と相互に関連を図りながら、生き方に影響を与えられる社会的（地域的）課題と取り組む学習の場が必要であると考え、「総合学習」を新設した。

環境破壊、国際化、情報化、高齢化等が、急激に変化する社会の諸課題としてクローズアップされてきた今、21世紀を生きぬく生徒にとって、これらの課題の重要度はさらに増大することが予想される。

このような社会的・教育的要請があると考えた場合、「よりよく生きる」ためには、自己と社会との関わりを無視することはできず、むしろ積極的に関わることによってその生き方が実現できると考えられる。

このような背景から、「よりよい社会」をめざすために、社会の課題についてのテーマ学習を設け、生徒が自分の生き方を問い直すことを期待し、「総合学習」を教育課程のなかに位置づけた。

2. テーマ学習と総合学習

今日、環境・国際理解・情報教育等々の研究実践が盛んに行われているのは周知の通りである。

しかし、これらのテーマ学習を、中学校教育課程の全体計画に位置づけた場合、「各教科の学習」「教科等の学習」「選択教科の学習」の一部または二次的な内容として、個別に取り上げられてきたのが現状で、テーマ学習としてのねらいや相互の補完関係および評価のあり方を明確に示しにくいという課題があった。そこで、これらの課題を解決するためには、一度教科の枠をはずし、独自のカリキュラムによってその糸口をつかむ必要が生じている。クロスカリキュラム・合科学習・総合学習とさまざまに提案されているが、これらは、先に述べた社会的・教育的要請を、いかに実証可能なものへと具体化できるかの模索である。

本校では、以上のような教育的課題に対して、社会的諸課題のなかから、特に将来重要な課題になるであろうと予測される、「福祉」「環境」「国

際理解」の3つを取り上げ、次のようなねらいをもって総合学習の研究に取り組んできた。

- (1) 本校の研究のねらいである「よりよく生きる生徒」の育成と総合学習のねらいとの関連を明らかにする。
- (2) 各テーマ学習のねらいと総合学習のねらいとの関連を明らかにする。
- (3) 総合学習と、「各教科の学習」「教科等の学習」「選択教科の学習」との相互補完関係を明らかにする。
- (4) このようなねらいを実現するための学習と評価のあり方を明らかにする。

以下、研究の概要を、必要な要点のみに絞って記述したい。

3. これまでの「総合学習」の歩みと課題

- (1) 1年次（平成5年度）

① 「総合学習」のねらいと方法

ア 「総合学習」を、「各教科の学習」「教科等の学習」「選択教科の学習」の発展、統合の場としてとらえ、人間の生き方を見つめ考えていく学習として位置づけた。

イ 内容と方法の特色としては、教科の枠をはずし、地域社会の生活から自由に課題・題材を選び、学年・学級を解体して1年間取り組むようにした。

② 課題

ア 生徒の興味・関心が、人の生き方を見つめ、考えるところまで至らなかった。

イ 生徒が追求したテーマが多岐多様にわたっていたことや時間が不足したこともあり、十分に教師が関われなかった。

- (2) 2年次（平成6年度）

① 改善点

ア 「福祉」「環境」「国際理解」の3つのテーマを設定し、1年生では「福祉」を通して体験と調査学習の基本的な技能を学ぶことから始めて、3年間で2つ以上のテーマを追求するものとした。

イ 教師は生徒の興味・関心を高めるような課題を与えたり、課題の本質に迫ることができるように、体験や調査の方法について

助言する。

② 成果と課題

ア 1年生の調査の技能やマナーは、次年度からの学習のためには効果的であったが、全員が習得したかどうかとなると、疑問が残った。

イ テーマを絞ったため、教師の援助がしやすく、体験や調査の質および生徒の意欲が高まった。

ウ 講座間での教師の共通理解がえられにくく、総合学習の目標や教科との違いが不明確に終わりがちだった。

特に、「各教科の学習」「教科等の学習」「選択教科の学習」との違いが明確にならず、「総合学習」の位置づけが大きな課題として残った。そこで、「総合学習」におけるめざす生徒像、研究のねらい、定義などをそれぞれ明確にし、整理する必要があるができた。

4. 「総合学習」におけるめざす生徒像

このような経緯から、平成6年度から、今年度にかけて、「総合学習」における「よりよく」生きる生徒像を次のようにまとめた。

(1) 「総合学習」における「めざす生徒像」

現代を見る目と21世紀を生き抜く力

(2) テーマ別の生徒像

ア 人間として共に生き、共に考える生徒（福祉）

イ 環境と人間との関係を見つめ、自分の生き方を問える生徒（環境）

ウ 国際人としての資質に気づき、自分の生き方を問える生徒（国際理解）

5. 総合学習の定義とねらい

次に、総合学習の定義とねらいを次のように明確にした。

(1) 定義

現代の問題であり、将来の課題でもあろうテーマについて、具体的な事実を取り上げて体験し、自然・社会・他者と積極的にかかわる中で複合的な社会のなかに自己が共存していることに気づき、共に生きるための資質や能力を育てようとする学習である。

(2) 研究のねらい

本研究は、「各教科の学習」「教科等の学習」「選択教科の学習」とともに、よりよい社会をめざし、生徒一人ひとりが、自分の生き方を問

い直す学習のありかたを研究、実践するものである。

このねらいに示したように、総合学習の位置づけを次のように修正した。

◎平成5～6年度

「総合学習」を、「各教科の学習」「教科等の学習」「選択教科の学習」の発展、統合の場としてとらえる。

◎本年度（平成7年度）

「総合学習」を、「各教科の学習」「教科等の学習」「選択教科の学習」と相互補完の関係としてとらえる。

6. 本年度の研究

平成6年度の課題から、「総合学習」のねらいをさらに明確にする必要がでてきた。社会とかかわるなかで自己の生き方を問い直すために大切な視点、つまり、社会の諸課題に対する認識の視点を明らかにし、それを育てることが総合学習において重要であると考え、次のように研究のねらいを焦点化した。

(1) 本年度の研究のねらい

現代社会の諸課題に対する認識を豊かにする学習のあり方を研究・実践する。

(2) 認識を豊かにするための3つの視点

現代社会の諸課題について

- ① 同世代の異なる追求の視点を生かす。
- ② 異世代の異なる見方や考え方にふれる。
- ③ 相互に異なる見方や考え方を伝え合い、視野を広げる。

(3) 研究仮説

課題について、自分と他の人の考えを比べることができるように学習を組織すれば、生徒は、課題の本質を見つめたり課題に対する複数の視点をもつことができ、これまでの自己の生き方を問い直すことができるであろう。

(4) 具体仮説

ア 「福祉」「環境」「国際理解」の3つのテーマとテーマ内講座を設定し、人々の思いや考えに触れることができるように体験を工夫すれば、生徒は、自分とは異なる視点から課題をとらえ直し、自己の生き方を見つめなおすであろう。

イ 講座別に、一つの課題について、生徒一人ひとりの追求テーマを明確にして多角的に調査させ、それぞれの視点に関連するように工夫すれば、生徒は、複数の視点から課題をとらえ直し、自己の生き方を見つめ直すであろう。

表1 平成7年度開設講座一覧

テーマ	講座名	担当	内容	方法	具体仮説	人数
福祉	老人の方を入浴させてあげよう	奥村	老人の方と一緒に風呂に入り、介助をする。	ディサービスセンターでの入浴の介助体験をする	ア	19
	附中生にできる福祉活動を考えよう	渡部	実際の福祉活動に出向き一緒に活動を行う。	いきいきプラザを訪問し福祉活動を考え実施する	ア	23
	養護学級と交流しよう	原	養護学級の生徒と一緒にいろいろな活動を行う。	ドッジボールや調理実習、食事などの交流を図る。	ア	20
	手話の世界	安達	手話を通して耳の聞こえない人との交流をする。	松江ろう学校の生徒との交流を行う。	ア	23
	福祉マップを作ろう	今岡	障害者にとっての道路事情や生活状況を考える。	車イスに乗って道路を歩いたり、ブラインドウォークを体験する。	ア	27
	あの子の笑顔に出会いにいこう	岩田	障害を持つ幼児との出会いを通して、家族や社会の実態を考える。	障害児通園校「ふじのみ園」の訪問と調査、子どもが喜ぶ企画を実施。	ア	24
	お年よりは何を望んでいるか	高橋	高齢者の方の生活の実態や願いをインタビューを通して知る。	近所のお年よりへのインタビューを通して調査を行う。	ア	23
環境	都市環境を考える	浜田	現在の便利な生活と大気汚染との関連を調べ、生活のあり方を考える。	松江各地の大気の状態をガス検知管や樹木により調査し原因を追求する。	イ	14
	都市環境	西山	よりよい都市環境について、現在の問題点から未来像をさぐる。	街に出て調査し、改善の方策を探り、未来像を様々な方法で提示する。	イウ	24
	穴道湖	梶谷	穴道湖のしじみの生態から環境問題の原因や社会の課題・生き方を探る。	しじみ取りの体験、漁協への調査、実験などを通して提言を行う。	イ	24
	EM菌を利用した浄化作用	長沢	ゴミ処理や水質・農薬汚染に気づき、EM菌を利用した改善策を考える。	EM菌を利用した環境浄化実験や文献調査、実践家へのインタビュー実施	ア	22
	よりよい松江の都市環境をめざして	西田	松江の都市環境を多角的に考察し、よりよい環境づくりへの提言を行う。	交通、道路事情等の訪問・実験・実測調査と分析統計グラフ作品づくり。	ア	7
	子どもと環境	宮本夏	子どもと環境の関係やあり方を運動、学校、資源などから多角的に探る。	幼稚園、小学校へのアンケート、行政への調査等からレポートにまとめる	イ	29
国際理解	演劇を通して思いを伝えよう	佐藤文長岡	松江の国際化や人的環境の課題を考え、演劇を通して表現する。	国際交流団体等や在日外国人の方への調査、演劇化と舞台発表を行う。	ウ	39
	日本・日本人を考える	寺本	「私の考える日本・日本人の姿」を考え、異文化理解の基礎を培う。	新聞や本、インタビューにより、日本・日本人の姿をとらえる。	ア	10
	数学と文化	宮本弘	数学の世界から、日本の文化、外国の文化についての違いにせまる。	数学史や和算などの文献調査と比較研究を行う。	イ	16
	郷土芸能・安来節の魅力をさぐる	布野	安来節の特色を理解し、アジアの民族音楽との共通点、相違点を考える。	講師による安来節の指導実演および調査とLDによる民族音楽の調査。	ア	18
	文化の違いを探ろう	平野	外国の食生活や食文化を調べ、文化の違いを認め合うことの大切さを学ぶ	図書などの文献調査や直接外国人に聞いて、レポートをまとめる。	イ	19
	食文化を通して国際理解を深めよう	三島	外国料理を作って試食し日本料理との違いを考え互いの良さを感じとる。	島根大学の留学生と一緒に料理を作ったり、文献から食文化を調べる。	ア	29
	スポーツトレーニング今昔	上代	欧米と日本のトレーニング方法の違いから、日本のあるべき姿を考える。	スポーツジムや施設を体験訪問し、昔と今、日本と欧米の相違点を調べる。	ア	24
	あの子の笑顔が見たいから～海を越えて君の心を届けよう	持田釜	国際社会に生きる一員として、自分達にできることや援助のあり方について考え、作品化する。	講師の話聞き、フィリピンの子供たちのために幼児玩具の構想を考え、作成して送る。	ウ	38

表2 テーマ群の目標および講座のねらい（福祉）

講座名	内容	目標の実際の場面			④福祉が必要とされる人や、福祉活動に携わっている人の自分とはちがう考え方を知る。	⑤その他
		①手紙の書き方、電話のかけ方、インタビューのしかたを知る。	②自分とはちがう友達の考えがあることに気付く。	③福祉の必要性や意義について体験を通して考えを深める。		
(学級ガイダンス)		スキルの理解				
老人の方を入浴させてあげよう(奥村)	デイサービスセンター内の入浴介助体験をもとに、老人福祉について触れさせ、福祉についての考えを深める。	手紙書き	体験後の話し合いを分類する。必要ならディベートをする。	各講座での体験学級での発表会講演		車イスの操作法(技能)
附中生にできる福祉活動を考えよう(渡部)	いきいきプラザ訪問で福祉の現場を知り、それをもとに自分達でできる福祉活動をして福祉について考えを深める。	手紙書き 電話	体験後、他の生徒の考え方感じ方を知る。		秋の訪問先での体験から今までの自分の理解との違いを知る。	「中学生に何ができるか」をつねに頭におきながら活動する。
養護学級と交流しよう(原)	養護学級との交流を通し、養護学級生徒の生活や人間性に触れ、理解を深める。	活動の企画、計画、実行力 手紙書き 電話 訪問のマナー	体験(交流、見学)や感想発表。		施設見学や所長の講話を通して、障害者の状況や課題について知る。	自分と異なる人の生き方に触れ、自分の見方考え方を見つめ直してみる。
手話の世界(安達)	松江ろう学校生との交流で手話やジェスチャーを使って会話をし、障害者福祉について考える。	手紙書き 電話	体験後の意見発表やまとめ。			手話(技能)
あの子の笑顔に出会いにいこう(岩田)	障害を持つ幼児の保育の実態調査と「ふじのみ園」での交流を通して、福祉のあり方や自分達のあり方を見直す。	電話 インタビュー 礼状書き	障害を持つ幼児への保育(福祉)のあり方や自分達のかかわり方を討議する。		保母さんや保護者、行政側へのインタビューや話を聞くことを通して、自分とは違う考えや見方を知る。	障害を持つ子供たちのけなげで素直な生き方に触れ、自分のあり方を考え直す。保母さんや保護者の思いを知り、自らのかかわり方を見直す。子どもたちの喜ぶ活動を考え、実行する。
福祉マップを作ろう(今岡)	障害を持つ人にとって松江の生活条件はどうあるべきなのかを、それぞれのテーマにそって考えマップを作成する。	インタビュー 礼状書き	テーマ決めと方向の検討時での協議。マップ、パンフレット作りでの討議。			松江の現状を把握し、障害者の方に本当に役立つものを作成するように努力する。
おとしよりは何を望んでいるか(高橋)	お年寄りへのインタビューからおとしよりが何を必要としているかを知る。	インタビュー 礼状書き	インタビュー項目決定の際の討議。		インタビューの場面で自分の予想と対比させて、おとしよりの考えを知る。	

表3 総合学習評価表 テーマ群（環境）

講座名	ねらい	友達の見方のちがいや自己の見方の変化に気づく。	対象や異世代の人々の見方のちがいや共通性に気づく。	自分、友達、対象者の見方や考え方をまとめ、自分の生き方を見つけることの大切さに気づく。
◇環境テーマ群全体	<ul style="list-style-type: none"> 私たちが生活している環境の、さまざまな問題に関心を持ち、体験を通しながら、その解決方法を追求し、よりよい社会の実現に向けて、広い視野から提言をしていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境について、問題とされる課題に関して、より多面的に情報を収集し、自分の生活とのつながりを生かしながら課題を追求することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分とは異なる意見や考え方の立場にたつて、問題の矛盾点を明らかにし、自分の考え方を広げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について追求してきた自己のテーマについて、具体的事実と原因とを関連づけながら、より広い視野から提言したり、情報の発信ができる。
○松江の都市環境を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 松江の都市環境について、公園や堀川、街路樹などの整備状況を見てまわり、問題に気づくとともに、それらを守っている人たちの意見を聞いて、松江の自然環境はこれでよいのかについて提言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 松江の都市環境の問題点について友達の見方や考え方や自分の見方や考え方には共通点や差異があることに気づき、自分の見方を広げていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 松江の都市環境の問題点について自分とは異なる意見や考え方の立場にたつて、問題の矛盾点を明らかにし、自分の考え方を広げていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 松江の都市環境の問題点について具体的事実に基づいて、より広い視野から改善の方策をさぐり、未来の松江市の○○を提言することができる。
○都市環境	<ul style="list-style-type: none"> 松江の都市環境について、現状および問題点を調査し、自分なりの改善の方策をさぐる。 調査や改善の方策をもとにして、未来の松江市の○○をレポート・模型・ポスター等で提示する。 			
○宍道湖	<ul style="list-style-type: none"> 最終達成概念：宍道湖の環境は私たちの生活と密接な関係にある。私たちが人間中心にならず、宍道湖の環境をよくしようとするれば、地球全体の生物の生命を保つことに通ずる。 ねらい <ul style="list-style-type: none"> 身近な宍道湖のしじみの生態を通して環境問題に気づき、その原因追求により現代社会がもつ課題やこれからの生き方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> しじみを用いた調理やしじみ漁やそこで働く人々に対して、友達の考えや思いにはちがいや共通点があることに気づき、自分の見方を見つめ直し、拡げていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 宍道湖に生息するしじみの生態を自分なりに追求して問題点を明らかにし、しじみや宍道湖の水環境を守ろうとする人々の考えとの違いや共通点に気づき、自分の考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 宍道湖に生息するしじみの生態についての具体的事実と、それを取り巻く自然的・社会的環境との関連を述べることができ、地域のなかでよりよく共生する方策を提案することができる。
○EMを利用した環境浄化作用	<ul style="list-style-type: none"> 地域や家庭の生ゴミ処理や水質問題、農業関係の環境問題に気づき、EMを利用し、実際に活動を通してその改善策を考え、提言する。 適切なメディアを選択し、内容や方法を工夫した提言のしかたができる。 	<ul style="list-style-type: none"> EMを利用した環境浄化作用について、友達の見方や考え方や自分の見方や考え方には共通点や差異があることに気づき、自分の見方を広げていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> EMを利用した環境浄化の応用例や活用状況、さらに実践者の人々との見方のちがいや共通性に気づき、自分の考え方を広げていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> EMを利用した環境浄化作用について、追求してきた自己のテーマを具体的事実に基づいて、表現方法やメディアを工夫しながら、より広い視野から提言することができる。
○よりよい松江の都市環境をめざして	<ul style="list-style-type: none"> 松江の都市環境（交通環境・公共料金等）の問題点について数学を活用しながら体験活動を通し追求し、多面的に考察する。 数学的手法（資料や統計グラフ等）を使って、よりよい松江の都市環境についての試案づくりと提言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 松江の都市環境の問題点について友達の見方や考え方や自分の見方や考え方には共通点や差異があることに気づき、自分の見方を広げていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 松江の都市環境の問題点について自分とは異なる意見や考え方の立場にたつて、問題の矛盾点を明らかにし、自分の考え方を広げていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 松江の都市環境の問題点について具体的事実に基づいて、数学的手法を使いながらより広い視野から試案づくりを行い、提言することができる。
○子どもと環境	<ul style="list-style-type: none"> T.V、ファミコン、ゲームと昔の遊びを比較し、子どもの遊べる豊かな環境とは何かを追求する。 豊かさや引き換えになくした子どもの生活環境を探し出し、今後の松江の都市環境はどうあるべきかを提言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の疑問に対してアンケート調査をしたり資料を集めたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに考え方等に対する共通性やちがいを探し出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが育つ環境として大切にしたい部分をいろいろな表現で提言できる。
	評価方法	感想、レポート	感想、レポート	感想、レポート、遊び新聞

表4 総合学習評価表：テーマ群の目標（国際理解）

「よりよい国際社会と地域社会をめざして～国際人としての能力や資質に気づき、自ら生き方を問う生徒の育成」

テーマ	ね ら い 最 終 達 成 概 念		
	国際理解	◎自分の考えや自国の文化は、他人や他国の文化と比べ、その違いが生まれてきた背景を知ったり、また、互いの共通性を確かめることを通して、広い視野からより深く理解することができる。そのことが、自分の生き方を問い直すことにつながる。	○地域、自国の文化に対する認識 世界のなかでの自分の文化
日本・日本人	国際理解のためには、相手を受け入れ、認めていくことが基盤となる。そのためにも、自己をしっかりと確立しておかなければならない。 まず、自国である日本、日本人という自分自身が持っている特色や文化を理解することが、他国を認め尊重していくことになる。	考え方の基本 昨年度の実践報告（3年生）のレポートを土台にして、友達、同年代の生徒の物の見方、考え方について知る。（限られた資料）	自分達で日常生活を見つめ直し、様々な情報を集めていくことによって、新たな面での「日本・日本人の特色」について実感する。
数学と文化	数学の成り立ちは、本来国際的なものであることから、数学の発生や数学の発展の過程を理解することが、自国と他国の文化を尊重することにつながる。	和算と現代数学の比較から、自分の見方や考え方、友達の見方や考え方には共通点や差異があり、延いては私たちに独自の文化がある。	数学の発生や数学の発展の過程には、文化や人間のすばらしい英知がある。
郷土芸能	郷土の伝統芸能の一つである安来節を通して、地域や自国の民族音楽（文化）を理解すると共に、諸外国の民族音楽（文化）とのちがいを正しく把握することが、自国と他国の文化を尊重することにつながる。	安来節を歌うという今までにない体験を通して、民謡に対する抵抗・偏見を取りのぞくと共に、安来節は我が国独自の文化であることを知る。	諸外国の民族音楽を視聴・調査し、それぞれの特徴や良さを認めた上で、安来節との共通点・相違点を明らかにする。
文化の違い	他国の文化を理解することを通して自国の文化を見直すと共に、違いを認めようとする心が大切である。	日本には日本独特の食べ物や食習慣があり、また、人によってそれらに対する見方、考え方に違いが見られる。	他国の食文化に関する様々な情報を集めることによって、自国の食文化との違いに気づく。
食文化	「食」は人間が生きていく上で欠かせない要素であり、最も興味を持たれていることである。 外国人と共に、お互いの国の料理を作ったり試食し合う体験をきっかけとし、食文化の違いを理解することは、よりよい世界をつくることにつながる。	自国の食文化に対する感じ方や考え方は、自分と友達では違いがみられると共に、私たちは共通する文化がある。	外国の食文化と自国の食文化には、共通点や相違点がある。しかし、それぞれの食文化が育った背景・歴史を考えると、お互いに尊重し合うべきものである。
トレーニング	松江市内のトレーニングジムなどで欧米から伝わってきた現代トレーニングを直接体験し、自国のトレーニングと比較したり統合することにより、より効果的で日本人にあったトレーニング文化を創造する。	体力や運動能力は、個々に違いがあり、トレーニング方法についての見方、考え方にも差異がある。我が国で生まれたトレーニングも日本人特有の身体能力を考慮した独自のものである。	我が国で普及しているトレーニングと欧米のトレーニングを運動生理学的な見地から比較すると、共通性や相違点がある。トレーニングを生み出すまでの過程や実行継続することの困難さに着目すると、人間の偉大さがそこにある。
あの子の笑顔	人類は、それぞれの生活環境の中で様々な問題を抱えながら生きている。国際社会に生きる一員として、日本人という狭い見地から離れ、地球規模で自分の考えや生き方を見つめることが必要である。 他国の生活の現状や問題点を知り、困っている人達のため、自分にも出来ることがあることに気づき行動することは、視野を広げ、互いによりよく生きようとする姿勢を身につけるステップになる。	他国の生活環境や問題点を知ることは、今まで当たり前だと思っていた自国の生活を再認識するとともに、様々な価値観の存在に気づくことになる。一つの目的のために友達と意見を出し合うことにより、自分の考え方や価値観を見直すこともできる。	経済的に恵まれず、教材や教具が入手困難な子供達に、手作り教材を送ろうという今回の取り組みは、子供達が「将来、自国の未来を切り開いていくための基礎となる力」を身につけるための手助けである。本当に役立つ援助をするためには、その国の文化や生活を認め、よく調べ上げた上で、その国に生活している人達の立場になって物事を考える姿勢が必要となる。それは、人間としてよりよく生きるためには何かが必要かという根本的な共通の価値観を探ることにつながる。
演劇	松江には、さまざまな考え方や文化・習慣のちがう外国人がやってきたり、住んでいる。私たちがそれらの人々のちがいを知るとともに接し方を学んだり身につけることが、よりよい世界をつくることにつながる。	外国人への見方や接しかたは、友達によってちがいがあり、その良さや偏見には、友達の個性とともに、私たちに共通する文化がある。	○国際化や経済の進展により、私たちが各団体・地方自治体は、国際交流を拡大することに努め、様々な工夫をしている。 ○共通する点をもつと同時に、異なる考えや文化・習慣をもつ外国人と松江市民は、互いの文化を学んだり協力したいと願っており、そのためにも、解決すべき課題がある。
評価法		感想・作品・レポート・学習・メモ・観察	感想・作品・レポート・実習・メモ

表5 学習計画表（福祉）

時 間	活 動 内 容	時 期	学 習 形 態	備 考	
1	イメージマップに記入、ガイダンス I	6月	クラス別一斉	体育館	
2・3	ガイダンスII（講座説明・希望講座調査） マナー指導 I（インタビュー指導・電話指導）	6月	学年一斉 クラス別一斉		
4・5	マナー講座II（手紙の書き方など） 講座別オリエンテーション	6月	クラス別一斉 講座別		
6・7	訪問計画作りと交渉or訪問 （訪問先への電話・インタビュー計画作りなど）	7月	講座別		
8・9・10	体験訪問 I	10月	講座別		
11・12	体験訪問 II	10月	講座別		
13	体験のまとめ	10月	講座別		
14・15	クラス別発表会 講演を聴く	11月	クラス別一斉 学年一斉		体育館
16・17	2・3年生テーマ別発表会へ参加	11月	個人選択		希望テーマへ
18・19	体験新聞作成	11月	講座別		
20	個人評価（イメージマップ・マークカード）	11月	クラス別一斉		

表6 学習計画表（環境・国際理解）

時	活 動 内 容	準備物・資料、調査訪問先	活動場所
1	・ガイダンス （講座の説明と選択・決定）	・希望調査用紙→担任へ	・体育館 ・各教室
2 3	・イメージマップの記入 ・オリエンテーション・テーマ決定	・イメージマップ ・メンバー表 ・活動計画用紙	・各教室
4 5	・活動計画の立案と活動①		・各教室 ・校 外
6 7	・活動②		・各教室 ・校 外
【課外】 夏 休 み	・調査実施 （訪問、実験、製作、データ収集）	・各自で準備	・家庭 ・図書館 ・訪問先
8 9 10	・活動③		・各教室 ・校 外
11 12	・発表準備①		・各教室
13	・発表準備②		・各教室
14 15	・講座内発表会		・各教室
16 17	・テーマ別発表会		・テーマ別
18 19	・レポート作成		・講座別
20	・イメージマップ・アンケート・自己評価	・イメージマップ ・アンケート用紙	・クラス別
冬休み明け	・レポート作成・提出	・学級担任へ	・各家庭